

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小035 町田市立木曽境川小学校

学力調査等の状況	
令和4年度からA層は割合としては増加しているが、東京都の平均よりも3%低い。昨年度の調査でも東京都の平均よりも結果が低かったことから、大きな変化はないといえる。引き続き、ICT機器を用いた意見交流やグループ学習、既習事項の活用といった論理的思考を育むための授業改善を図る。	

見えてきた課題	
正答率と意識調査結果との乖離がある。A・B層の割合は、全国平均よりも4%程度高いが、都の平均よりも4%低い。一方で、意識調査質問番号(53)「算数の授業の内容はよく分かりますか」で、「わかる、どちらかといえばわかる」と回答した割合は、89.6%と学年のほぼ9割となっている。この値は、都平均に対し8.5%、全国平均に対し18.5%と大きく上回っている。この結果から、児童自身は算数の授業の内容を理解していると感じているものの、実際は基礎基本の定着に課題があることがわかる。本校のC・D層の割合は合わせると46.2%である。授業改善を図るとともに、少人数グループ、支援員による個別指導、さらに放課後補習時間の確保などを行い、基礎基本の確実な定着を目指す。	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	学習のめあてや流れ、進め方を提示している。授業の課題を把握させる。
振り返りの設定	自分の言葉で学習について自己評価させ、次時の学習の見通しをもたせる。
ICT機器の活用	意見の発表や集約をしたり、協働的な学びを進めたりするために、Chromrbookやデジタル教科書を活用する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識や目的意識を明確にさせる。 ○単元のゴールモデルを示し、学習の見通しをもたせる。 ○単元を振り返り、自分の学びや変容を自覚させる。 ○自分の思いや考えを言葉で表現させる。 ○既習事項と関連付けて自分の考えをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元のゴールを示し、学習計画を立てることで見通しをもたせる。 ○自分の思いや考えを表現させるために、短作文を多く書かせる。年度当初はモデルを示し、徐々に自分の言葉でかけるように指導する。 ○並行読書を行い、読書に親しむ。 ○音読を毎時間行う。文章を文節で言葉をとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各段落の内容を整理するために、内容に合った小見出しを付けるなどの活動を取り入れる。 ○自分の一番伝えたいことが読み手に伝わるような文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成に沿って文章を書かせる。 ○新出語句の意味を丁寧に解説したり、読み聞かせをしたりする中で語彙を増やしていく。 ○モジュールや家庭学習、小テストを効果的に実施して漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語や説明文で、筆者の意図を叙述から読み取る活動を設ける。また、事実と意見を判別する学習も意図的に設ける。 ○読み手に伝わる分かりやすい文章を書くために、「はじめ・中・終わり」の構成を基本として経験や自分の考えを交えた文章を書かせたり、スプレッドシート等を用いて友達と互いの文章を読み合わせたりさせる。 ○新出語句の意味や同意語、言語文化に関する時間を設け、知識・技能を高めていく。 ○モジュールや家庭学習の時間を効果的に活用して漢字の定着を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○統計、写真などの資料の基本的な見方、読み取り方を重点的に指導するとともに、学力調査で課題のあった「複数資料を読み取る問題」への対応として、「価値ある対話の共有」を意識した授業改善に取り組む。(ジャムボードやスプレッドシートでの情報共有を要とする) ○施設の見学を行う体験的学習や外部人材を活用した学習を積極的に取り入れ、資料や写真を活用したりして、問題解決への意欲を伸ばす工夫を図る。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町探検において、公共施設や店などの見学、働く人々へのインタビューなどを通して、自分の身近な社会への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地図記号や方角などを通年で活用することで地図を読み取る技能を身に付けさせる。 ○実生活での経験や、実際に見学して見たり聞いたりしたことを、新聞を作ったり、スライドにまとめたり表現することで思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフやデータ、写真など複数の資料を比較・検討しながら、共通点や差異を見つけ、自分の言葉でまとめさせる。 ○実際に体験できない事柄を児童にとって身近な事象・数・時代に置き換えて説明させたり、振り返りを書かせたりする。 ○スライド等を使って、教科書や資料集の内容をまとめ、相手に説明する時間を設ける。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベアシッドドリルやプリント等を活用して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせる。 ○ICTを活用して、児童の思考力・表現力および主体的な学びに向かう力を向上させたり、具体物を提示したりして、数量や図形についての豊かな感覚を育む。 ○中学年以上は、少人数(習熟度別)クラス編成をして児童の実態に合わせてクラスごとに指導計画を立て、個別最適化した学びの場を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たし算・ひき算・かけ算のフラッシュカードをドリルソフトなどを活用し授業中に扱い、繰り返し計算練習を行うことで習熟を図る。 ○具体物から半具体物、そして数・記号などの指導を徹底し、体験的な活動を多く取り入れながら数の概念の理解を深めさせる。 ○文章題を読んで読み取ったことを絵や図に表す活動を常時取り入れることで思考力・表現力の基礎を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年で培った基礎的な計算力をもとに、より応用的な計算練習を行い、習熟を図る。 ○デジタル教科書を駆使し、具体物や半具体物、数・記号などの指導を徹底する。 ○体験的な活動を多く取り入れ、自ら解決するための思考力・表現力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学年で培った計算力をもとに、応用的な計算練習を行い、習熟を図る。 ○多角形を描く経験などを通して、プログラミング的思考の良さを実感する。 ○自分の理解度に応じて、自分に適した習熟度別コースを選択し、自らの学びの調整力を高める力を育てる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を充実させ、観察実験の過程・結果を的確に表現する能力の育成を図る。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。(科学的な知識・理解の定着を目指す) 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して動植物を観察し飼育するような体験的な活動を多く行う。 ○実体験をもとに学習を深めていけるように、四季を通した自然とのふれあいを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年の生活科で培った基礎を元に、興味・関心をもって体験的な実験・観察をしていく。また、それが実践できるように授業を計画し展開していく。 ○実験・観察の前に、児童同士で自分の予想とそう考えた理由を交流する時間をとるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事実認識を丁寧にし、自分の言葉で書かせることで、子供の理解をより深め、定着を図る。 ○諸感を活用した学習を行うことで、表面上の理解ではなく生活に生かせるような、生きた力につなげていく。 ○理科独特の言葉を用いて自分の考えをまとめる活動を行うことで、用語や概念の獲得を図る。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○入学当初、生活科を中心としたスタートカリキュラムを行う。 ○活動や体験を通して、地域教材・人材を活用し、学校や地域までの生活に関わる人々や施設について考え、探究心や問題解決の素地を養う。 ○身近な自然に関わったり、動植物を育てる活動を通して、自然に親しみ大切にしようとする心情を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域人材を活用して、活動の充実を図る。 ○カメラ機能を使った記録や、ジャムボードでの意見交換やまとめを行い、ICTを活用して探求や問題解決をする素地を身に付ける。 ○児童が思いや願いをもって主体的に活動できるよう、話し合い活動の充実を図る。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏技能を身につけさせ、様々な楽器の演奏意欲をもたせる。 ○リズムやハーモニーを楽しみながら歌えるよう、自然で無理のない歌い方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身に付けると共に、手持ちの打楽器等を体験させる。 ○楽しく歌い、友達と声を合わせる楽しさを体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーの基本的な奏法を身に付けさせ、音楽室の様々な楽器を経験させる。 ○友達と声を合わせることに加え、曲の特徴や良さを生かしてリズムやハーモニーを楽しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器の基本的な奏法の定着を図り、グループ合奏、クラス合奏と友達と一つのものをつくり上げる達成感を味わわせる。 ○自然で無理のない歌い方を身に付け、二部合唱等を通して曲の特徴や良さを自分で工夫して表現できるようにする。
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向かう姿勢・意欲を育てる。 ○豊かな発想をし、手や全体を十分に働かせ、表し方を工夫する力の育成を図る。 ○身近にある作品などからよさや面白さを感じ取る力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入の発問を工夫し、楽しく発想したり、「やってみよう」という意欲がもたれるようにする。 ○材料や用具を安全に正しく使えるように、模範の動きをスクリーンを活用して分かりやすく説明する。 ○活動中に互いの作品を見合う場を設定して、豊かな発想を促したり、自分の作品に生かしたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてや活動の流れを視覚化し見直しをもたせ、振り返りを重点的に行うことで児童一人一人の学習状況を見取り、個に応じた指導・支援を行う。 ○材料や用具の正しい扱いについて定着を図り、自分の表現に合わせて自ら選択できるようにする。 ○自分の見方や感じ方を深めるために、作品のよさや特徴を捉え、友達と表現の意図を伝え合う対話的な活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習学習を活かしながら、題材から発想を広げ、材料の使い方や表現方法を自分で考えて計画するなど、主体的に取り組めるようにする。 ○材料や用具の扱いに慣れさせるとともに、それぞれの特性を理解して活用したり、自己の表現に役立てたりできるようにする。 ○自分の見方や感じ方を深めるために、作品のよさや特徴を捉え、友達と表現の意図を伝え合う対話的な活動を取り入れる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ○様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ○家庭生活を大切にしようとする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能をデジタル教材を参考に身に付ける。 ○様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ○家庭生活を大切にしようとする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の動きを動画で撮影し、考えたことなどを伝える活動を取り入れる。 ○運動の動きの見本を動画で確認させることで、運動の理解を高める。 ○自身で何度も取り組んだり、行い方を試行錯誤したりしながら、運動に親しむ心情を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びの中で、上手な友達の動きを見て、ポイントを確認していく。 ○教員の動きや友達の良い動きを見て、運動遊びの理解を高める。 ○遊びの中で、何度も取り組んで、運動に親しむ心情を育てる。 ○休み時間に外遊びを促し、体力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能のポイントを示し、チームで話し合える時間では、良いところや課題に気付けるようにする。 ○運動の動きの見本を動画で確認したり、学習カードを活用したりして動きのポイントを理解する。 ○自身で何度も取り組んだり、行い方を試行錯誤したりしながら、体を動かす楽しさを知り、運動に親しむ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童によって体力に差があるので、活動時間を多くして、体力向上を図る。 ○クロムブックを活用し、自分や友達の運動の動きをよく観察させたり客観的にとらえさせたりして、運動の理解を高める。 ○児童が進んで新しい技にチャレンジしたり、より上手に技ができるようにしたりできるように、選択できる場を多くしたり、励ます声をかけたりする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTとのやりとりにおいて、状況説明を行いオールイングリッシュの授業を目指す。 ○ピクチャーカードを有効に活用し、英語の語彙力を高める。 ○書く活動においては、お手本や例示により全員が書くことができる状況にする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○児童が楽しく学習できるように、教科書をベースにしながら、アクティビティを導入する。 ○児童が発語できる機会を増やす。 ○新しいセンテンスや語句が出てきたときには、板書をして、目・耳・口と、五感を使って理解できるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間を要として教育活動全体を通じて道徳性を養う。 ○自分の考えたことを基に、書いたり話し合ったりして考えを表現する機会を充実させる。 ○自分と異なる考えに接することで、自分の考えを深めることを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の実態に合わせて、児童が深く考えられるような主題名を設定する。 ○道徳性を養うために、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ○児童が考えやすくなるように、問いかけの仕方を工夫したり、ワークシートに書く内容を精査して最小限にする。 ○出た意見を分類するなどして、自分の意見と同じかどうか、目で見て分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自己を見つめ、生き方についての考えを深められるように、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ○ワークシートに書くことを通して、自分の考えを振り返るようにする。話し合いの時間の確保のため、書く活動の場面を精選する。 ○ペアやグループ、全体というように、学習形態を変化させることにより、他者と考え方を交流できる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態を加味しながら、道徳の時間などを通して道徳性を養う。 ○ICTを活用しながら、多くの児童が自身の考えを表出できる機会を増やす。 ○グループトークの時間を設けるなど、交流を増やし、多様な考えがあることを知るとともに、自身の考えを深化できるようにする。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に発話、できるように、変化のある繰り返しで児童を飽きさせずに発話量を確保する。 ○ICT機器を有効に活用し、外国語活動に主体的に取り組もうとする態度を養う。 ○ALTとのやりとりにおいて、状況説明を行いオールイングリッシュの授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの先生や友達と楽しみながら、繰り返し発音して英語に触れる機会を確保する。 ○音楽やカードや絵本などを活用しながら、積極的に取り組もうとする態度を養う。 ○ALTの先生の英語を聞きながら、身振り手振りを見て、日本語が少なくなるような授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と楽しみながら単語や会話に慣れ親しみ、動画やイラストなど視覚的資料を充実させて英語の表現を身につけさせる。 ○ゲームや音楽、アクティビティ等の楽しく活動できる内容を中心とした授業の組み立て、主体的に関わる活動を増やす。 ○ALT・MEPSと連携を図り、たくさん発話し、単語や会話を身につけさせる。 	/
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら気づき、進んで取り組む児童を育む。 ○学校生活の充実を図るために、諸問題を話し合い、主体的に解決する態度を養う。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報から自分の必要なものを取捨選択することを指導する。 ○ICT機器を積極的に活用し、課題を解決するために適切な情報を集める仕方を指導する。 ○自分の考えを表現するために分かりやすく相手に伝える方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が探究できるような課題や過程を設定する。 ○ICTを活用して、自分の考えを表現したり、調べたことを発表したりするのに適した情報収集の仕方を指導する。 ○自分が調べたことが相手に適切に伝わるような発表方法を指導する。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら気づき、進んで取り組む児童を育む。 ○学校生活の充実を図るために、諸問題を話し合い、主体的に解決する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が学級を良くしようと思えるように、肯定的な声掛けをしたり、周りをよく見ている児童を褒めたりする。 ○少人数グループでの話し合いの場を設けることで、自分の意見を表明しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級・学年の活動や行事などから自分たちが取り組むべきことを考え活動するきっかけとする。 ○少人数グループや学級全体など様々な話し合いや活動を行うことで自分の考えを伝えたり、実際に行動する場面を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が進んで学級をより良くしようと思えるような活動ができるよう、肯定的な声をかける。 ○よりよい学級や学年、学校全体についてふりかえる時間を確保し、児童が話し合ったり、行動したりできる機会を増やす。